

NX7700x/A3010E-2 ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。
誠に恐れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

■ 注意事項

● Boot ModeおよびX2APIC(*)設定について

本装置では、ご使用されるOS（下記表）により、システムBIOSの「Boot Modeメニュー」および「X2APICメニュー」において、適切なモード設定を行う必要があります。本サーバでは出荷に際して、「Boot Modeメニュー」と「X2APICメニュー」は、それぞれ“UEFI” “Enabled”に設定されております。

| ご使用 OS | システム BIOS の設定 | |
|--|---------------|----------|
| | Boot Mode | X2APIC |
| Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (x86_64) (64-bit 版) | UEFI | Enabled |
| VMware ESXi 6.0 Update 1b 以降 | Legacy | Disabled |

* X2APIC: CPUの割り込みコントローラ

● OS のサポート情報について

本装置のサポートOSは、下記のウェブサイトをご確認ください。

<http://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html>

装置添付のEXPRESSBUILDERに収録されているバンドルソフトウェアは、追加サポートのOSに対応していない場合がありますので、ウェブサイトに記載されている情報に従い、必要なソフトウェアを入手（ダウンロード）し、適用してください。

● Standby Power Save機能についての注意事項

BIOS 設定の[Server] – [Power Control Configuration] – [Standby Power Save]をEnableに変更しないでください。

本項目がEnabledの状態でOSからシャットダウンした場合、電源投入時にPOWERスイッチを押しても電源がONになりません。

この場合、いったん電源ケーブルを抜き（冗長電源利用時は2本とも）、30秒後に再度電源ケーブルを接続してください（冗長電源利用時は2本とも）。約60秒後に装置が起動しますのでBIOS設定で[Standby Power Save]をDisableに変更してください。

● ハードウェアの追加・変更時の注意事項

次のハードウェアを追加/変更した場合は、電力ピーク制御機能(Power Capping機能)に必要な情報を更新するために、システムBIOSセットアップユーティリティー(SETUP)を起動して[Server] – [Power Measurement Policy]を[One Time]に設定し、[Save & Exit] – [Save Changes and Exit]を実行し、システムを再起動してください。

- a) プロセッサーの取り付け・取り外し
- b) DIMMの取り付け・取り外し

● インテル(R) Xeon(R) プロセッサー E5-2600v3 製品ファミリー使用時の注意事項

インテル(R) Xeon(R) プロセッサー E5-2600v3 製品ファミリーを搭載した構成において、訂正可能なMCE(Machine Check Exception)が発生しオペレーティングシステムにHW Errorとして記録されることがあります。このエラーは自動的に修正されており、パフォーマンス低下や、システムオペレーションへの影響はありませんので、そのままご使用ください。

● 管理LANをShared LAN設定で使用される場合の注意事項

UEFI 設定時、ROM Utility のネットワークの設定での、Connection Type の設定変更ができません。

以下のいずれかの方法によりLegacy Mode に変更後、設定いただくか、あるいは各種OS上から、設定変更を行ってください。

■ 設定変更方法

本機の電源をONするとディスプレイ装置の画面左下に次のメッセージが表示されます。

Press <F2> SETUP, <F3> Internal Flash Memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network
ここで「F2」キーを押して、BIOS Setup Utility を起動します。

[Boot] – [Boot Mode] にて、[UEFI] 設定から[Legacy] 設定に変更を行って、
[Save & Exit] – [Save Changes and Exit] を実行し、BIOS Setup Utility を終了します。

[Legacy] 設定に変更を行なった後、再起動を行うと、ディスプレイ装置の画面左下に次の
メッセージが表示されます。

Press <F2> SETUP, <F3> Internal Flash Memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network
ここで「F4」キーを押して、ROM Utilityを起動します。

[KB_Select] – [Server Configuration Utility] – [EXPRESSCOPE Engine 3] – [Configuration] – [Network]
– [IPv4 Property]

へお進みいただき、Connection Type の設定変更を行ってください。

※設定変更後は、必要に応じBIOS Setup Utility にて、[UEFI] 設定に戻してください。

● NE3303-178 RAIDコントローラ ご使用時の注意事項

本機で作成できる論理ドライブは最大で31台になります。

Ctrl-R/HII およびUniversal RAID Utility から、32台以上の論理ドライブを作成しないでください。

● BIOS Redirection Port設定について

本装置では、システムBIOSの「BIOS Redirection Port」メニューは、出荷時、「Serial Port B」に設定されておりますが、BIOS設定の初期化(Load Setup Defaults)を実行すると、本設定が「Disable」に変更されます。その場合、下記の手順で、再度設定変更する必要があります。

■ 「BIOS Redirection Port」の設定変更手順

1. 本体の電源をONするとディスプレイ装置の画面左下に次のメッセージが表示されます。
Press <F2> SETUP, <F3> Internal Flash Memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network
ここで「F2」キーを押して、BIOS SETUPメニューを起動します。
2. [Advanced] - [Serial Port Configuration]を「Enter」キーで選択して
[BIOS Redirection Port] → [Serial Port B]に設定を変更してください。
[Serial Port B]に設定した後に、新しく設定項目が表示されますので、
[Terminal Type] → [PC-ANSI]、[Baud Rate] → [19200]に設定を変更してください。
3. 「ESC」キーを押して[Advanced]に戻ります。
4. [Save & Exit] - [Save Changes and Exit]を選択して、システムBIOSのセットアップを終了します。

● NE3703-301/302 Infinibandホストチャネルアダプタ ご使用時の注意事項

MC-SCOPE CD収録の各モジュールは、Infinibandホストチャネルの監視や診断をサポートしておりません。

● RAID配下の論理ボリュームへのオペレーティングシステムインストールについて

RAID配下の一つの論理ボリュームに対して、パーティション分割し、複数のオペレーティングシステムのブート・ルート領域をインストールすると、ブートマネージャ管理において、ディスク障害起因で、ブートエントリの再構築が必要となった場合、復旧手順が複雑になる可能性があります。そのため、一つの論理ボリュームに対して、オペレーティングシステムのインストール数は一つまでの構成とすることを推奨します。

● Cluster On Die 設定、Early Snoop 設定の追加について

システム BIOS Ver. 5.0.4015 より、Cluster On Die 機能をサポートしました。

上記により、システム BIOS のセットアップユーティリティー(SETUP)の [Advanced] - [Memory Configuration] サブメニューに次の 2 項目が追加されています。

| 項目 | パラメーター | 説明 |
|----------------|-----------------------|--|
| Cluster On Die | [Disabled] Enabled | Cluster On Die 機能の有効／無効を設定します。本項目は「NUMA」を[Enabled]に設定し、本機能をサポートしているプロセッサーを搭載すると選択できます。 |
| Early Snoop | Disabled [Enabled] | Early Snoop 機能の有効／無効を設定します。本項目は「Cluster On Die」を[Disabled]に設定すると選択できます。 |

[] : 出荷時の設定

上記の Cluster On Die 項目を Enabled にする場合は、DIMM 搭載枚数にご注意ください。

● 1CPU構成時

Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep の場合

少なくとも、CPU1_DIMM1 ~ DIMM4 スロット全てにDIMM を搭載すること。

Memory RAS Mode: Sparing

少なくとも、CPU1_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 スロット全てにDIMM を搭載すること。

● 2CPU構成時

Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep の場合

少なくとも、CPU1_DIMM1~DIMM4 スロットおよびCPU2_DIMM1~DIMM4 スロット全てにDIMM を搭載すること。

Memory RAS Mode: Sparing

少なくとも、CPU1_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 およびCPU2_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 スロット全てにDIMM を搭載すること。

プロセッサーの Cluster On Die 機能を有効活用するために、次の DIMM 構成を推奨します。

● 1CPU構成時

Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep の場合

CPU1_DIMM1 ~ DIMM8 スロットにDIMM を搭載する。

もしくは、CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 スロットにDIMM を搭載する。

Memory RAS Mode: Sparing

CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 スロットにDIMM を搭載する。

● 2CPU構成時

Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep の場合

CPU1_DIMM1 ~ DIMM8 スロットおよびCPU2_DIMM1~DIMM8 スロットにDIMM を搭載する。

もしくは、CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 スロットおよびCPU2_DIMM1 ~ DIMM12 スロットにDIMM を搭載する。

Memory RAS Mode: Sparing

CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 スロットおよびCPU2_DIMM1 ~ DIMM12 スロットにDIMM を搭載する。

なお、DIMM の搭載順序につきましては、ユーザーズガイドを参照してください。

● 1CPU構成時 (Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep)

| DIMM 増設数 | Cluster On Die 機能 | 対象 DIMM スロット |
|----------|-------------------|---------------------|
| 1 セット | 利用不可 | - |
| 2 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM4 |
| 3 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM6 |
| 4 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM8 |
| 5 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM10 |
| 6 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 |

● 1CPU構成時 (Memory RAS Mode: Sparing)

| DIMM 増設数 | Cluster On Die 機能 | 対象 DIMM スロット |
|----------|-------------------|---|
| 1 セット | 利用不可 | — |
| 2 セット | 利用不可 | — |
| 3 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 |
| 6 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 |

● 2CPU構成時 (Memory RAS Mode: Independent/Mirroring/ Lockstep)

| DIMM 増設数 | Cluster On Die 機能 | 対象 DIMM スロット |
|----------|-------------------|--|
| 2 セット | 利用不可 | — |
| 3 セット | 利用不可 | — |
| 4 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM4, CPU2_DIMM1 ~ DIMM4 |
| 5 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM6, CPU2_DIMM1 ~ DIMM4 |
| 6 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM6, CPU2_DIMM1 ~ DIMM6 |
| 7 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM8, CPU2_DIMM1 ~ DIMM6 |
| 8 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM8, CPU2_DIMM1 ~ DIMM8 |
| 9 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM10, CPU2_DIMM1 ~ DIMM8 |
| 10 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM10, CPU2_DIMM1 ~ DIMM10 |
| 11 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12, CPU2_DIMM1 ~ DIMM10 |
| 12 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12, CPU2_DIMM1 ~ DIMM12 |

● 2CPU構成時 (Memory RAS Mode: Sparing)

| DIMM 増設数 | Cluster On Die 機能 | 対象 DIMM スロット |
|----------|-------------------|--|
| 2 セット | 利用不可 | — |
| 3 セット | 利用不可 | — |
| 4 セット | 利用不可 | — |
| 5 セット | 利用不可 | — |
| 6 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 CPU2_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 |
| 7 セット | 利用可 | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12, CPU2_DIMM1 ~ DIMM3, DIMM5 ~ DIMM7, DIMM9 ~ DIMM11 |
| 8 セット | 利用可(推奨) | CPU1_DIMM1 ~ DIMM12 CPU2_DIMM1 ~ DIMM12 |

Cluster On Die 機能のサポート追加に伴い、以下の POST エラーメッセージが追加されます。

| エラーメッセージ | 意味 | 対処方法 |
|----------|---|--|
| A428 | Cluster On Die was not ready. | 現在のハードウェア構成では、Cluster On Die 機能を有効にできません 本機能をサポートするプロセッサーに交換してください。または、SETUP を起動し、[Cluster On Die]を無効にしてください。問題が解決しないときは、保守サービス会社に連絡してください。 |
| A429 | DIMM population is insufficient for Cluster On Die. | 現在のメモリ構成では、Cluster On Die 機能が有効に動作しません メモリ構成が正しいか確認してください。問題が解決しないときは、保守サービス会社に連絡してください |

● ユーザーズガイド、メンテナンスガイド誤記訂正

ユーザーズガイド、メンテナンスガイドの記載内容に一部誤記があります。
恐れ入りますが、下記の内容をご一読いただきますようお願い申し上げます。

(注) ユーザーズガイド、メンテナンスガイドは、添付のDVD-ROM「EXPRESSBUILDER」の中にオンラインドキュメントとして収録されています。

| 項番 | ページ | 誤 | 正 |
|----|---------------------------|--|--------|
| 1 | ユーザーズガイド 51 ページ | ●メンテナンスガイドの「2 章(1. システム BIOS)」を参照し、メモリミラー設定できるか確認してください。 Advanced → Memory configuration → Memory Information で「Mirroring」の項目が「Supported」と表示されていることを確認。 | (削除) |
| 2 | ユーザーズガイド 56 ページ | ●メンテナンスガイドの「2 章(1. システム BIOS)」を参照し、メモリスペアリング設定ができるか確認してください。 Advanced → Memory configuration → Memory Information で「Sparing」の項目が「Supported」と表示されていることを確認。 | (削除) |
| 3 | メンテナンスガイド 125, 126 ページ | (1) エラーメッセージ一覧 PCIe Link Width Error | 表 1 参照 |
| 4 | メンテナンスガイド 126 ページ | (1) エラーメッセージ一覧 B273 : PCI Slot 2B - PCIe Link Speed Error | (削除) |

表 1 (修正部分抜粋)

| エラーメッセージ | 意味 | 対処方法 |
|----------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| B231 | PCI Slot 1A - PCIe Link Width Error | PCI Slot 1A の Link Width エラーが起きました。 |
| B232 | PCI Slot 1B - PCIe Link Width Error | PCI Slot 1B の Link Width エラーが起きました。 |
| B235 | PCI Slot 1C - PCIe Link Width Error | PCI Slot 1C の Link Width エラーが起きました。 |
| B236 | PCI Slot 2C - PCIe Link Width Error | PCI Slot 2C の Link Width エラーが起きました。 |
| B237 | PCI Slot 3C - PCIe Link Width Error | PCI Slot 3C の Link Width エラーが起きました。 |
| B238 | PCI Slot 1D - PCIe Link Width Error | PCI Slot 1D の Link Width エラーが起きました。 |
| B239 | PCI Slot 2D - PCIe Link Width Error | PCI Slot 2D の Link Width エラーが起きました。 |
| B23A | PCI Slot 3D - PCIe Link Width Error | PCI Slot 3D の Link Width エラーが起きました。 |

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、弊社担当営業までお問い合わせください。

NEC



855-900986-001- G+